



主人公は子ども・・・

校長 中村 行雄

20年以上前の出来事です。

その頃、私は岐阜市内にある中学校で女子バレーボール部の顧問をしていました。夏の中体連市内大会で、勝てば地区大会に出場できる試合でした。1セット目は何とか勝つことができましたが、2セット目は中盤までは3点差で負けていました。流れがこちらに来て、これから逆転しようとした時に、3年生のセッターの選手がミスしたレシーブのボールを追って、ネットの支柱に額をぶつけてしまいました。ちょうど支柱に巻いてあるカバーが途切れているところでぶつけたので、額にはこぶができてしまいました。会場の養護教諭に診てもらい、大丈夫だったので彼女はそのまま試合を続けました。結局その試合には勝って地区大会への出場を決めました。

大会が終わって、チームで反省会をしていると、けがをしたセッターの保護者の方が私のところまでやってきて、「先生、けがをしてでも地区大会へは行くべきなんではないですか？」と話されました。「私は子どもがけがをしているのがすごくかわいそうに思えて仕方ありません。そこまでして地区大会は行くべきなんではないですか？」と言われました。突然そのようなことを言われた私は、「申し訳ありません。お子さんにけがをさせてしまって・・・。」としか答えられませんでした。当然、保護者の方は納得されませんでした。

子どもたちと私は地区大会出場をめざしてがんばってきたので、意気揚々とさらに次の目標を決めていましたが、保護者の方の言葉に静まり返ってしまいました。そうしたら、額をぶつけた3年生のセッターの選手がやってきて、「私はお母さんのためにバレーボールをしているんじゃないから、私は私のためにやってるんだから。」と強い口調で言いました。その言葉に保護者の方はもうそれ以上何も言われませんでした。

後日、練習をしていると3年生のセッターの選手の保護者の方がみえて、「先生、試合の日は申し訳ありませんでした。あの時は、私は保護者として子どものことを思っているつもりでしたが、子どものけがを心配して自分が納得できない思いを先生にぶつけて、先生を悪者にして納得しようとしていました。子どものことを考えているつもりが自分のことしか考えていませんでした。子どもと話してそれがわかりました。」と話されました。

「あの時、子どもに『けがは心配だけど、よく頑張ったね。おめでとう。』と言ってあげるべきでした。部活の主人公は子どもたちですから。先生、子どもたちと一緒にがんばっていただいてありがとうございます。」と最後に話されました。

子育ては難しいことが多いです。学校での教育も同じです。でも、学校の主人公は子どもであり、私たち大人は自分の思い通りにならなくて悩むのではなく、子どもの成長にとって何が大切なのか、子どもの思いを叶えるためには何が必要なのかを悩むことが子育てや教育であることを再確認したいです。

12月の行事予定

- 12月 2日(月) 心と体のアンケート 保護者懇談 14:30~(～6日(金))
一斉下校 14:00
- 3日(火) 学校運営協議会
- 4日(水) 人権学活 ひびあい集会
- 6日(金) 学校徴収金集金日
- 9日(月) 5時間日課 南遊び チャレンジ週間(～13日(金))
- 10日(火) ミニ歌声集会
- 11日(水) 5時間日課 スクールカウンセラー
- 12日(木) 委員会
- 13日(金) 学習記録会 薬物乱用防止教室(6年生)
- 15日(日) 資源回収 予備日:12月22日(日)
- 16日(月) 5時間日課
- 17日(火) クラブ活動
- 18日(水) 歌声交流会リハーサル 5時間日課
- 19日(木) 歌声交流会 5時間日課
- 20日(金) 大掃除週間(～25日(水))
- 23日(月) 5時間日課
- 24日(火) クラブ活動
- 25日(水) 大掃除 14:50一斉下校
ワックスがけをする児童 16:15頃下校
- 26日(木) 4期振り返り集会 冬休み前集会 13:30集団下校
- 28日(土)～31日(火) 学校閉庁日

1月の行事予定

- 1月 1日(水)～5日(日) 学校閉庁日
- 6日(月) 学習費等口座引落日
- 8日(水) 休み明け集会 5期スタート 心と体のアンケート 13:30下校
- 9日(木) 委員会
- 10日(金) 十日市のため学校休業日
- 15日(水) 5時間日課
- 16日(木) クラブ活動
- 18日(土)・19日(日) 中津川市ふれあい書画展(ひと・まちテラス)
- 20日(月) 5時間日課
- 22日(水) 5時間日課
- 23日(木) 委員会
- 27日(月) 5時間日課
- 29日(水) 中間まとめの会
- 30日(木) クラブ活動